ハンドボールによって育まれた高津の誇り

高校 11 期　(1959 年卒)　中井（旧姓：井上）晴子

ハンドボール入部のきっかけは校内大会でした。中学では３年間バスケットボールをしていましたが、ハンドボールの面白さを少し味わい、もっとやってみたくなりました。

バスケットボールでは、ダッシュしてその勢いをシュートに持っていってもリングには入りません。ボールの勢いを殺してそっと置くように持っていったり、回転をかけたりしないとゴール出来ません。それがハンドボールでは、ダッシュして行ったスピードをそのまま全身の力でゴールに投げ込むというのがとても気に入りました。

直射日光も気にせず、顧問の先生や先輩からコーチを受け、走りまわりました。

３年生の夏、１年の時の担任の斉藤先生から「まあ、あなた、その顔は何？真っ黒じゃない」とあきれられたりしました。

部活動中、顧問や素晴らしい男女の諸先輩からコーチを受け、ハンドボールの面白さと共に、ハンドボールを通じて高津高校生であることの誇りや高津を愛する心が生まれてきたように思えます。

３年間ではありましたが高津でハンドボールをして良かったとつくづく思っています。

1964(S39)年１月５日
大阪ハンドボール選手権大会
大谷クラブ　対　高津クラブ
　於：ナンバ体育館

キーパー	樋口
フルバック	安田
バック	藤原
ハーフバック	坂口
フォワード	井上、浅野、石崎

ハイキングにて　(↑中央：田中さや先生)

ハンドボール（送球）と人の繋がり

高校 11 期　(1959 年卒)　　柳（旧姓：浅野）朝子

遥か過ぎ去りし高津高校時代、思い出深いのは、やはりハンドボール部　皆様の長いつながりでした。

私にとって高１の「ハンドボール校内大会」に出場し、初めて知ったスポーツでした。

上級生の勧誘で何となく入部し、以来ずうっと今に至るまで何かしら「ハンド」が遠くにあったり、近くにあったり、私の人生と共に何処かで歩んで来たような気がします。

高２の時、１１人制も少し経験し、その後７人制に切り替った時には、スタンディングシュートに加え、ジャンプシュートも初めて試みました。跳び上がり、体が空中にある間、どうひねって？目線はどこにとか、高さはなくても出来るだけ内へ跳び込もうかなんて、上手く出来なかったけど、シュートする時は、とても楽しかったです。

当時は、お忙しい中でも少しでも現役・後輩の為にと高津へ足を運んで下さる熱心な大学生や社会人の先輩の厳しいご指導、優しいお心遣いがうれしいものでした。そして、又、

熱心な顧問の先生方にも支えられ、伝統的な「高津ハンドボール部」の良さ、楽しさが現在まで継続しているのだと思います。額田先輩の「OB・OG 会はフェニックスの如く」思い出したら、又、集まれば良い。

そして、２００４年５月２９日「大阪市中央公会堂」にて「第１回高津ハンドボール部 OB・OG 会」が高１９期　川上貴司氏を会長に発足しました。諸先輩方の大きな胸の中で支えられながら、役員の皆様は、ご自身の仕事も病気も乗り越え、献身的に名門「高津ハンドボール部 OB・OG 会」の発展と現役への励ましを続けてこられました。毎年、総会・懇親会で、三世代、元気いっぱいの皆様と出会い、感激しております。

ハンドボールが繋ぐ人の温かさや真剣に歳を忘れ、皆様とご一緒させて頂けた事に大変感謝いたしております。

体育祭　高２･高１でクラブ行進

高２　体育祭係